

校長室通信

令和8年9月3日号
志免町立志免西小学校
高良 祐治

夏休みが終わり、学校に元気な子どもたちの声が帰ってきました。まだまだ暑い日々が続いていますが、前期もあと1か月ほどで終わります。生活リズムを夏休みモードから学校生活モードに早く切り替えて、遊びや学びなど、様々な活動を充実させてほしいです。

夏休み期間中に、4月に全国の6年生を対象に行われた全国学力学習状況調査の結果が学校に送られてきました。この調査は、国語と算数の学力調査と、日常生活について回答するアンケートから構成されています。今回は、西小の子どもたちの生活の様子と学力(今回は算数を例に)の関係についてお伝えします。

明らかな違いが見られます

～スマホの使用時間と学力～

まず、子どもたちのスマホの使用時間と算数の学力の関係を調べてみました。

すると、平日にスマホやタブレットで SNS や動画視聴をしている時間が、4時間以上の子どもと、2時間未満の子どもでは、4時間以上の子どもの正答率が11.4ptも低いことが明らかになりました。

4時間以上 SNS や動画視聴をしているということは、学校や習い事から帰って、食事や入浴などを除いたほとんどの時間を費やしているのだと思います。

次から次に履歴に合わせて、関心を引く動画が表示される中、ついついだらだらと見続けてしまう。友だちと、学校ではなかなか話せないやり取りを、終わるタイミングを見つけられずに、長時間続けてしまう。大人でも切りよくやめることは難しいのですから、子どもだとなおさらだと思います。

さらに、どんな動画を見ているのか、どんな人とつながってどんなやり取りをしているのか、親として責任をもって十分に把握することも難しいのではないのでしょうか。

学校では、これまでもお知らせしているように、子どもにスマホを与えることはおすすめしていませんが、親の責任のうえで与えるのであれば、使い方について十分に話し合い、必要であれば、フィルター等の制限をかけることも必要だと思います。

～読書と学力～

次に、子どもたちの読書量と算数の学力の関係を調べてみました。

学校の授業時間以外に、漫画や雑誌をのぞいてどれくらい読書をしているか調べたところ、30分以

上の子どもたちと30分以下の子どもたちでは、30分以下の子どもたちの正答率が6.5pt低いことが明らかになりました。

そもそも、4時間以上も SNS や動画視聴をしていれば、読書をする暇などないでしょうから、この結果は当然と言えば、当然かもしれません。

学校では、図書の時間を確保して読書に親しみを持たせるよう指導していますが、高学年になっても絵本や図鑑のような文字の少ない本を選びがちな子どももいます。読書は、場面の様子を豊かに想像することで、情操を豊かにすることはもちろん、思考力や判断力を育むことにもつながります。

学力調査の問題は、国語も算数も問題文が大変長く、場面の状況や何が問われているのかを把握するためには、「読む力」が欠かせません。

お子さんの興味関心に合わせて、一緒に本を選び、少しずつ読み進め、最後まで読み終えることで、読書のすばらしさを実感するとともに、読み終えることができた自信もつけさせていただきたいと思います。

このほかにも、自分の考えを発表するとき、自分の考えがうまく伝わるように様々な工夫をして発表する子どもは、正答率が高いなど、日常の家庭生活や学校生活の姿が、学力に大きな影響を与えていることが明らかになりました。

「じゃあ、スマホを取り上げ、読書をさせれば学力が上がるのか？」というほど単純な問題ではないと思いますし、学力調査の結果がすべてでもないでしょう。しかし、将来、子どもたちが自らの進路を選択するときに、支えとなる必要最低限の学力をつけさせる環境を整える努力や工夫は、大人として、してあげられることがあると思うのです。